

航空輸送の安全にかかわる情報の報告（平成 24 年度）（要約版）

1. 航空事故・重大インシデントの発生の概況

平成 24 年度において本邦航空運送事業者の運航に伴い発生した航空事故及び重大インシデントは以下のとおり。

○ 航空事故（4 件）

- ・平成 24 年 6 月 20 日、全日本空輸機（ボーイング式 767-300 型）が、成田国際空港に着陸した際にハードランディングとなった。点検の結果、主翼前方付近胴体上部に変形が認められた。（乗客 5 名及び客室乗務員 4 名が軽傷）
- ・平成 24 年 10 月 16 日、第一航空機（ブリテン・ノーマン式 BN-2B-20 型）が、粟国空港を離陸した直後に鳥と衝突し、機体を損傷した。
- ・平成 24 年 11 月 19 日、中日本航空機（アエロスパシアル式 AS332L1 型）が、比良場外離着陸場を離陸し、物資の吊り上げ作業中、地上作業員が吊り上げ物資に接触したため転倒し、負傷（右手首骨折等）した。
- ・平成 24 年 11 月 26 日、日本航空機（ボーイング式 767-300 型）が、成田国際空港を離陸し、飛行中、機体が動揺したため、乗客 1 名が負傷（右足首骨折）した。

○ 重大インシデント（8 件）

- ・平成 24 年 7 月 5 日、那覇空港において、管制官より滑走路手前で待機するよう指示されていた中国東方航空機（エアバス式 A319-112 型）が、同滑走路に進入したため、着陸許可を受けていたエアアジア・ジャパン機（エアバス式 A320-214 型）が管制官の指示により復行した。
- ・平成 24 年 7 月 8 日、個人機（セスナ式 172RG 型）が管制官の着陸許可を得て福岡空港に進入中、同滑走路から出発を予定していた日本エアコンピューター機（ボンバルディア式 DHC-8-402 型）が管制官から滑走路に入って待機するよう指示を受け同滑走路に入った。そのため、個人機は、管制官の指示により着陸復行した。
- ・平成 24 年 7 月 8 日、朝日航洋の航空機（マクドネル・ダグラス式 MD900 型）が、旭川赤十字病院場外離着陸場を離陸した直後に、第 1 エンジン（プラット・アンド・ホイットニー・カナダ式 PW207E 型）が停止したため、目的地を旭川空港に変更し、同空港に着陸した。

- ・平成 24 年 10 月 20 日、ジャルエクスプレス機（ボーイング式 737-800 型）が、東京国際空港を離陸し、上昇中、第 1 エンジン（シーエフエム・インターナショナル式 CFM56-7B 型）の回転数の低下及び排気ガス温度が高いことを示す計器表示があったため、当該エンジンを停止し、航空交通管制上の優先権を要請のうえ引き返し、同空港に着陸した。
- ・平成 24 年 10 月 31 日、日本エアコンピューター機（ボンバルディア式 DHC-8-402 型）が屋久島空港に着陸し、滑走路北西側末端において転回した後駐機場に向かって地上走行していたところ、同機が滑走路を離脱する前に、同滑走路に入って待機していた個人機（ユーロコプター式 AS350B3 型）が離陸した。
- ・平成 24 年 12 月 8 日、全日本空輸機（ボーイング式 737-800 型）が、庄内空港に着陸した際、滑走路からオーバーランし、草地で停止した。
- ・平成 24 年 12 月 25 日、ジェイエア機（ボンバルディア式 CL-600-2B19 型）が、花巻空港に着陸した際、滑走路を左側（東側）へ逸脱し、前輪が草地にはみ出した状態で停止した。
- ・平成 25 年 1 月 16 日、全日本空輸機（ボーイング式 787-8 型）が、山口宇部空港を離陸し、飛行中、バッテリーに不具合が発生したことを示す計器表示とともに、操縦室内で異臭がしたため、航空交通管制上の優先権を要請のうえ目的地を高松空港に変更し、同空港に着陸した。着陸後、誘導路 T4 上にて搭乗者を脱出用スライドを使用して降機させた。

2. 航空法第 111 条の 4 の規定による報告の概況

平成 24 年度においては、本邦航空運送事業者から、航空法第 111 条の 4 の規定に基づき、航空事故 4 件、重大インシデント 8 件及び安全上のトラブル 991 件の合計 1,003 件について報告があった。

表 1：事業者別報告件数

ANA グループ	JAL グループ	日本貨物 航空	スカイマーク	エア・ ドゥ	スカイネット アジア航空	スターフライヤー	ヒューチ・ アビエーション	ジェットスター・ ジャパン	エアアジア・ ジャパン	その他
256	281	36	208	43	26	38	8	7	17	83

表 2：機種別報告件数

B737	B747	B767	B777	B787	A320	MD-90	DHC-8 (-400除く)	DHC-8 -400	CRJ	ERJ 170	SAAB 340B	その他
382	52	191	61	22	88	8	15	41	71	47	12	13

表 3：安全上のトラブルの内容別分類件数^{注1)}

機材 不具合	ヒューマンエラー						回避操作		鳥等の外来物 による損傷	被雷	その他
	運航	客室	整備	地上 作業	設計 製造	その他	TCAS ^{注2)}	GPWS ^{注3)}			
528	51	3	55	1	5	1	183	9	35	82	38
	116						192				

注 1) 分類別の件数は、今後の要因分析の進捗により変更されることがある。

注 2) 航空機衝突防止装置の回避指示に基づく回避操作を表す。

注 3) 対地接近警報装置の指示に基づく回避操作を表す。

3. 安全上のトラブルの評価・分析と今後の対策

第 13 回航空安全情報分析委員会において、平成 24 年度の安全上のトラブル等について審議した結果、それぞれの事案について、関係者により必要な対応がとられており、引き続き適切にフォローアップを行っていくべきことが確認されました。

また、引き続き、安全上のトラブル等の航空安全情報の分析に基づき、機材不具合への対応、ヒューマンエラー防止への取組み、TCAS RA や GPWS による回避操作に係る情報共有を進め、このような個別事案への対応を適確に行うとともに、航空運送事業者の新規参入による航空を取り巻く環境変化にも十分配慮し、監視・監督の強化、予防的安全対策の充実等を図る取組みを継続する必要があるとの評価を受けています。